







## 電子ジャーナル 問題の本質

館長 富田 義典

電子ジャーナルは最近の図書館運営においてもっとも頭の痛い問題のひとつだ。だが、電子ジャーナルを図書館の問題であるととらえるならば、問題の核心をとらえたことにならず、ひいては長い目でみた場合の対応を過つ可能性もある。

電子ジャーナルの現状に関する指標をいくつか拾ってみよう。電子ジャーナルの総タイトル数は、それが始まったのが1990年代初頭であり、今や全世界で約5万点にまでなっている。理・工・医系の学術誌の96%以上、人文・社会系でも、約90%が電子化されている。

日本では、1997年は1大学平均電子ジャーナル数は約10タイトルでしかなかったものが、今や約7000タイトル(国立大学平均)にまで増加している。

では、電子ジャーナル経費はどのくらいになったか。1995年には、1誌の平均は千ドル弱だったものが、今や約5000ドルに上昇した。そして、ほとんどの電子雑誌が少数の出版社によるパッケージに組み込まれ、それとともに価格は上昇をつづけ、パッケージ購読のための総費用は国立の中規模大学でも一億円程度、大規模大学ではその数倍になっていると推定される。

その経費のうち約5割はE社のパッケージ代金が占める。毎年3~5%は上がってきた。そもそも商取引のあり方として、将来の値上げを通知しながら現在の契約を結ぼうとするのはよほど力関係に隔たりがある相手でなければありえないことである。たしかに大学はそのようなものとして見られているのだろう。じゃあ、パッケージから抜けて、個別雑誌の購読に切り替えればいいが、そうすると雑誌は“ペナルティ”価格に吊り上げられる。

どうすればいいのか。

端的に言って、元に戻ればすぐ問題は解決する。いつごろまで戻ればいいのかは学問分野によって異なる。どのような状態に戻ればいいのかといえば、一生懸命研究し大学の紀要や学会の雑誌に投稿していたころにである。そのころは、紀要の維持費として1~2万/年、学会費1万程度/年(経済学関係の場合)を払えば論文を掲載してもらえ、他人のものも読むことができ、年に数回開催・刊行される学会や学会誌誌上で、学問的優劣を競い、論議を闘わせば学問は進み、自らの学問的ステイタスも上げることができた。それで十分であった。このように、学会と紀要がほぼすべてであった時代は、論文を読んだり、発表したりするのであれば、当たり前なことであるが費用も手間も身の丈に合った、実感の湧くところであった。

それが今や、同じく論文を発表し、読むだけで、大学や図書館という機関としての出費によりまかなわれ、その額も億になんなんとするようになってきている。同じ論文を佐大の電子ジャーナルで見ると東大の電子ジャーナルで見るとでは倍の費用の差が出る。大学の規模によって見る人の数が異なるから大学として払う代金も異なるからだとのことである。こんな意味の分からないことになっている。通常であれば、そんな理不尽な商品であれば買わない。止めればいい。しかし、言うも愚かなことながら、今や学会は世界につながっており、日本の、ある分野の、研究者があくどいとされる外国出版社の雑誌への投稿を止め、フリーペーパーを発刊して対抗姿勢を見せたとしても、出版社はせせら笑うだけである。それどころか、そんなことをする時間があるなら、インパクトファクターの高い雑誌に載せるよう研究に励むほうが自分のためになる。これが今の研究者の実態である。インパクトファクターの高い雑誌はそれこそあくどい出版社の電子ジャーナルにがっしりと組み込まれているのである。もう動きが取れないし、捨身にもなれない。言ってしまうと、今日の電子ジャーナル騒動は学者自らが招いたものである。

あえていえば、国際的につながった学会がごっそり、しかもかなりの数のそうした学会が電子ジャーナルから抜けるようになれば、学者・大学と電子ジャーナルとがフラットな競争ができるようになるであろう。しかし、そのようになるための学者側の姿勢の変化は、今のところ百年清河を待つにも等しいと思えないのである。



## 私の研究活動における 論文投稿の変遷

副館長 熊本 栄一

私の研究活動は大学4年の研究室配属の時から始まり、修士と博士の課程を経て佐賀医科大学（現佐賀大学医学部）に赴任して現在に至るまで、40年近く続いている。この間、様々な実験をし、何か新しい現象を発見すれば研究論文として学術雑誌に投稿・発表するという過程を延々と続けてきた。この間に論文投稿の仕方が大きく変わったので、私の場合を例に挙げ、この変化を述べてみたい。

少なくとも15年前頃は、国外の学術雑誌に論文を投稿する際には航空便を利用していた。雑誌の編集部へ論文が届くまでに約1週間、編集部から論文受理の手紙が届くまでに約1週間かかったため、自分の論文が無事編集部へ届いたことを確認できるのは少なくとも2週間後であった。しかるに現在では論文投稿はインターネットを利用して行われる。つまり、投稿したい雑誌のウェブサイトへアクセスし、まず user name と password の登録、次に投稿論文に関連した情報を入力した後に原稿や図を upload するだけで論文投稿は終了である。その後、論文受理を知らせる E メールが届くので、2、3日で論文が編集部へ届いたことを確認できる。

編集部が論文を受理した後、雑誌のエディターがその論文を審査するレフェリーを決める。以前はエディターとレフェリーの間での情報のやりとりも郵便だったため時間がかかっていたが、現在は E メールで行われるので、レフェリー決定と論文査読も早い。レフェリーは雑誌のウェブサイトから投稿論文の pdf ファイルを download し、多くの場合、2週間以内にその論文に対するコメントを用意しなければならない。エディターはレフェリーのコメントの妥当性を判断して、論文の採択結果をその投稿者に E メールで通知する。このため早ければ結果を投稿後3週間で知ることが出来る。必要に応じて論文を再投稿する。運がよければ、論文を投稿した後1、2ヶ月以内でその採択の可否の最終結果を知ることが出来る。私が航空便で論文を投稿していた頃、採択結果が通知されるまでに1年かかったこともあった。

新しく発見した現象の新奇性の程度に応じて投稿雑誌を決める。以前では、何となく学術雑誌のランク付けがあったが、現在、それは impact factor (IF) の数値の大小として表されている。最近、Open Access Journal として紙媒体のない新しい雑誌がどんどん作られている。これらの雑誌では、掲載料を著者自身が払う一方、PubMed や Google Scholar などの検索サイトを通して誰でも無料で論文を download 出来る。IF が割と高い雑誌で掲載料が約20万円のものもある。我々は今年、Wiley 社が新しく作った Open Access Journal に論文を投稿したが、キャンペーン期間中のため幸いなことに掲載料は無料であった。また、Elsevier 社は多くの学術雑誌を発行しており、我々はこれに論文投稿することが多いが、リプリント発送日を通知するなどの採択後のサービスが良い。

以前の学術雑誌の出版社は欧米のものが中心であったが、現在では中国、インド、中東各国など経済発展の著しい国のものが増えている。今後、研究の中心が欧米からアジアなどに移ってゆくかもしれない。



## 知識共創社会における 図書館の役割

佐賀大学デザイン思考研究所  
松前あかね

昨秋、附属図書館ラーニングコモンズにおいて、「国際デザイン思考ワークショップー有田のこれからを探るー」を開催した。有田の窯元での合宿を含む5ヶ月間にわたるデザイン思考プログラムの中間報告会であったが、ラーニングコモンズという新たな知識共創の場づくりに挑戦する附属図書館行事としても位置づけられた。

デザイン思考は、多様な専門領域・立場・文化を持つ人々の連携により、社会で求められる新たな価値を共創するための方法論である。今回も異なる特徴をもつ複数の窯元の経営者・非窯業の経営者・町議会議員・商工会議所・県内外の様々な職業の社会人、そして本学の学生や様々な分野の研究者ら36名が混成チームをつくり、デザイン思考を学び、その実践に取り組んだ。自治体・地域のクリエイティブコンソーシアム・民間投資家・本事業のスポンサーである米国領事館…多方面からの支援体制の中で育まれた「有田の0→1」の芽の幾つかは複数のファンドを獲得し、プログラム終了後も周囲の人々や組織を巻きみつつ、地域に根ざした当事者主導の自律的展開をみせている。

文科省の国立大学第3期中期計画運営交付金配分の在り方検討会議事録においても「事業創造の核となる人材の育成」が朱字追記された。新時代を拓く事業共創、すなわち持続可能なイノベーション共創の方法論を実践的に学ぶ場は、学生の教育・社会人の学び直しの場であると同時に、イノベーション共創エコシステムとしての役割を直接的・間接的に果たす可能性を秘めている。

「イノベーション」という言葉は浮いた印象を与えがちであるが、知識科学を開拓した野中らが「(その創出メカニズムを) 暗黙知と形式知のダイナミックな相互変換運動」と説明するように、地に足のついた実践と深い知識を両輪とする。個々人が直接的な経験・共感を通じて対象から暗黙知を獲得し(共同化)、それを他者との対話や思索を通じて形式知化し(表出化)、得られた形式知を体系的にシステム化・理論化し組織知へと組み上げ(結合化)、組織知の実践・具現化を通じて個々人が新たな暗黙知を獲得し(内面化)、さらに新たな共同化へと循環させる、これこそイノベーション共創の方法論と言われるデザイン思考の本質である。

私たちの社会が大きな転換期にある今、かつては効率的に機能した「与えられた課題に対して定石を適用し計画的に遂行する力」のみでは打開できない局面があふれている。近年の国内外での、特に我が国の産業界・教育界におけるデザイン思考の急速な普及は、ダイナミックな文脈の中で課題を自ら発見・定義し、その複合的な要素を包含する現代的課題に対して多様な人々と共に創造的な解を探り、柔軟に実践していくマネジメントが、かつてなく切実に求められている表れといえよう。

そのような時代にあつて図書館に期待される役割も自ずと変わり、従来のように個々人が形式知を獲得するための場としてのみならず、社会に開かれた知識共創の場としての役割が注目されつつある。本学附属図書館が様々な制約の下、既述のようなソフト面での知識共創の場づくりと表裏一体のものとしてラーニングコモンズ整備を捉え、進められていることに利用者として感謝したい。

## 図書館は学生の学びを応援します ～自学自習スペースをさらに整備しました～

附属図書館本館の3階マルチメディアルーム(AV資料閲覧室)を、10月にグループ学習室5として利用できるよう模様替えを行い、可動式のテーブルと椅子、取り外し可能なホワイトボード等を設置し、グループワークが可能なスペースへと整備しました。グループ学習室5は、常時開放していますので、日常は学生が学習空間として利用していますが、教員からの予約があれば、グループワークが必要な授業でも使うことができますようにしています。マルチメディアルームの機能はAV資料がある1階閲覧スペースへ移し、より便利に利用できるようにしました。

また、平成27年3月には、本館1階のラーニング・コモنزのパソコンをほとんど1階閲覧席側に配置換えし、パソコンがあったところには可動式のテーブル、椅子を整備して座席数を40席から70席に増やし、多くの学生が利用できるようにしました。座席数が増えたことにより、授業ができるスペースとしても活用されています。



グループ学習室5



パソコンコーナー

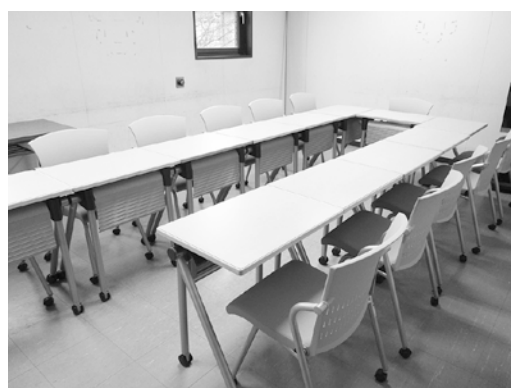


ラーニング・コモنزでの授業風景

医学分館では、平成27年3月に館内の6人掛け閲覧机10台に対して、対面を仕切る仕切り板を取り付けました。これまでこれら大きな机は、その着席可能人数にもかかわらず、互いに面識のない利用者どうしが着席しにくいという状況があり十分に活用されていませんでした。仕切りを設けることで机が3席ずつに区切られ、対面の利用者を気にすることなく着席できて学習に集中できる環境になりました。同時にビデオスライド室1内の什器について、それまで大きな机2台にキャスター付きの回転椅子だったものを、可動式のひとりかけ机・椅子14セットと入れ替えました。多目的学習室にすでに導入しているものと同様のタイプで、机を組み替えて利用できることから、ビデオスライド室でのグループ学習がより柔軟に行えるようになりました。また1階のパソコンコーナーの椅子も従来の回転式のキャスター椅子からより動作の軽い4本脚のキャスターに入れ替えました。



閲覧機の仕切り(1階閲覧室)



ビデオスライド室の新什器

## 学生選書(さらりーず)の活動

読書奨励企画として、前年度に引き続き、平成26年度も学生参加型の活動である学生選書(愛称:さらりーず)を行いました。メンバーは総勢29名となり、過去最多人数となりました。

ミーティングをランチ時に行うなど、和やかな雰囲気ですらりーずの活動を考えたりメンバー同士の仲を深めたりすることができました。

学生選書ツアーは全部で3回行いました。例年、選書ツアーと同日程で他の図書館や施設を見学して視野を広げるようにしています。8月12日(火)に福岡市総合図書館見学、丸善博多店で選書、8月22日(金)に武雄市図書館見学、紀伊國屋書店佐賀店で選書、9月5日(金)に九州大学伊都図書館見学、九州大学学生サポーターとの意見交換、ジュンク堂書店福岡店で選書を実施しました。選書ツアーは好評で、図書館に置く本を書店で選ぶという方法が新鮮で楽しいとの声がかかれます。また、選書された本は他コーナーの本よりも利用が多く人気があります。

今回は、地域の方とのビブリオバトルに参加したり、新入生向け広報誌に本のおすすめコメントを書いてもらったりなど、選書以外でも協力してもらいました。

今後は選書以外の活動面も伸ばしていき、このさらりーずでの経験が大学卒業後社会人となっても生かせるよう、職員と学生が協働して作り上げる企画を考えていきたいと思えます。その活動を活かし、他の学生からみても魅力的な図書館づくりに役立たせることができるよう努めていきます。



選書の様子



九州大学図書館サポーターの皆さんと

## Library Lovers' キャンペーン「衝撃のワンフレーズ」

平成26年度も九州地区図書館の合同イベントであるLibrary Lovers' キャンペーンに参加しました。今回のテーマは「衝撃のワンフレーズ」で、心にグッときたある本のフレーズを紹介するというものでした。イベントポスターカラーに合わせ、黒と白を基調にしてディスプレイを作成し、カウンター前の目立つ場所に設置し投稿されたコメントを展示しました。コメントを書くグッズをもらえるという特典つきだったため、利用者の目を引くコーナーとなったようです。



展示の様子

## 全国大学ビブリオバトル2014京都決戦 学内予選会を開催

昨年度、大変好評だったビブリオバトル全国大会の予選会を10月9日(木)に開催しました。

ビブリオバトルは、ゲーム感覚で本の紹介ができるイベントとして、現在、学校、書店、職場などで全国的に広がってきています。ビブリオバトラー(発表者)たちがおすすめ本を持ち合い、1人5分の持ち時間で書評した後、バトラーと観客が一番読みたくなった本、「チャンプ本」を決定します。予選会でチャンプ本に選ばれた学生は地区決戦ブロック大会(福岡)へ出場して戦うことになり、そこで勝ち進めば、さらに全国大会(京都)にも出場できます。

今年の予選会は、分野が違う文系と理系の学生・院生の合計6名で、お気に入りの本についてプレゼンテーションをしました。バトラーはみんな緊張をしつつも、制限時間の5分間をめいっぱい使いながら思い入れのある本を自分の言葉で真剣に紹介していました。

当日の観覧者は、佐賀大学公開講座「みんなの大学」の受講生50名にも参加してもらい満席となり、バトラーと観覧者で幅広い年齢層に楽しんでいただけたイベントとなりました。

ビブリオバトルは、本の魅力を知ったり伝えたりするだけでなく、自分以外の人に伝えるプレゼン能力やお互いのコミュニケーション能力を学べる機会でもあります。学生向きともいえるこのイベントを今後も続けていく予定です。



ビブリオバトル学内予選会 会場の様子

## 図書館システムの更新について

平成27年3月に、図書館システムを更新しました。引き続き“NALIS”(NTTデータ社)を採用し、画面、機能、操作性等の衣替えを行っています。利用者のみなさまから大きく変わった点はOPAC(蔵書検索)です。画面はもとより、新たにファセット(利用者が検索条件を入力するのではなく、サイト側であらかじめ用意した検索条件を選択することにより検索を行う機能)、資料タイトルや著者名をもとに類似資料を表示する機能、市内公共図書館の所蔵状況を表示する機能等を追加しています。どうぞご利用ください。



OPAC検索画面



OPAC検索結果画面



## 「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」が利用できます

11月から、「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス(図書館向け)」が利用できるようになりました。これは、平成21年と平成24年の著作権法改正により、資料保存の目的で国立国会図書館(以下、国会図書館)の資料のデジタル化が可能になり大規模デジタル化が進んだこと、またそのデジタル化した資料を全国の図書館等へ送信することが可能になったことから開始されたサービスです。これに参加することで、これまで国会図書館内でしか利用できなかったデジタル化資料が佐賀大学図書館内の専用端末でアクセス可能となり、閲覧と複写のサービスを提供できるようになりました。

国会図書館に所蔵されている資料のうち、絶版等の理由で入手が困難なものについて、図書、古典籍、雑誌、博士論文など約131万点が利用できます。

このサービスを利用すれば、国会図書館に複写を依頼したり、また実際に出向いたりなどの時間や手間を取ることなく、利用者が専用端末で資料の本文を画像で見ることができ、複写(画像の印刷)を希望すれば、早くてその日のうちに複写物を受け取ることができるというメリットがあります。

佐賀大学所属の教職員、大学院生、学部生の方向けのサービスです。カウンターで申込みをしていたら利用できますので、ぜひご活用ください。



国立国会図書館デジタルコレクション  
<http://dl.ndl.go.jp/>

## 現場実習の受入

○佐賀大学文化教育学部附属特別支援学校の現場実習を下記のとおり受け入れました。

6月9日(月)～20日(金) 中学3年生 1名

実習内容

館内清掃、書架整理、カウンター業務、図書の装備(タルトープ入れ、背ラベル貼り等)



## 平成26年度図書館月間を開催

附属図書館は、生涯学習の拠点としてのサービスを提供するという目的のもと、毎年11月を図書館月間として催しを行っています。平成26年度は、開窯400年を間近に控えた「有田焼」をテーマに、講演会と関連展示、さらに佐賀大学デザイン思考プログラム委員会との共催でワークショップを開催しました。

### 講演

日 時：11月12日(水) 14:00～16:00  
 会 場：佐賀大学附属図書館 本館4階会議室  
 講演者：元佐賀県立九州陶磁文化館館長 大橋 康二氏  
 演 題：「有田磁器の創始と発展 —400年の歴史をたどる—」

### ワークショップ

日 時：11月16日(日) 9:00～16:30  
 会 場：佐賀大学附属図書館1階ラーニングcommons  
 名 称：「国際デザイン思考ワークショップ —有田のこれからを探る—」

### 展示

期 間：11月5日(水)～19日(水)  
 会 場：佐賀大学附属図書館 本館1階エントランスホール



講演する大橋康二氏



ワークショップ風景



展示風景

## 「アメリカンシェルフ」プロジェクト講演会を開催

附属図書館は、在福岡米国領事館と「アメリカンシェルフ」プロジェクトによる文化交流を行っています。平成26年度は米国大使館から講師をお招きし、九州龍谷短期大学図書館と佐賀女子短期大学図書館との共催で学生を主対象とした講演会を開催しました。本学からはアメリカ文化を学ぶ学生、両短大からは図書館情報学を学ぶ学生、また県内の公共図書館職員等が多数参加し、講演終了後は活発な質疑応答が行われ、有意義な講演会となりました。

日 時：6月9日(月) 13:00～14:30  
 会 場：佐賀大学附属図書館 本館4階会議室  
 講演者：米国大使館情報資料担当官 アルカ・バトゥナガー氏  
 演 題：「アメリカ公共図書館におけるマーケティングの取り組み」



講演会の様子

## オープンキャンパスで本の展示やイベントを実施

8月8日(金)、佐賀大学のオープンキャンパスが開催されました。図書館では本の展示やしおり・うちわ作りの企画などを行い、多くの高校生の方々に来ていただきました。

本館では、大学生になった自分を想像してもらえような新生活ガイド本や雑誌の展示コーナーを作り、また、来館の記念になるよう、館内マップや図書館キャラクターをモチーフにしたしおりを配布しました。

医学分館では、ミニイベントとして『オリジナルしおり・うちわ作り』を実施しました。今年も好評でたくさんの方々が参加してくださいました。熱心にしおりを作る一方で、多くの方が医学書を手にとって目を通したり、館内の設備を見学するなど、はじめて訪れる大学図書館、医学図書館の雰囲気を楽しまれている様子でした。

オープンキャンパスは、将来の入学生に向けて大学の魅力を伝えることができる絶好の機会です。佐賀大学生になったらぜひこの図書館に通いたいと思ってもらえるよう、今後も積極的に展示・イベントなど行っていききたいと思います。



## 本館1階エントランスを展示スペースとして活用中です

平成25年度から本館1階エントランスのスペース貸出を行い、図書館設備の有効活用に役立てています。平成26年度は、佐賀大学写真部と美術部の作品展、男女共同参画をテーマとした川柳展、ビブリオバトルや古本市を実施しました。

写真部は春と秋に開催(会期:5月8日(木)～5月15日(木)と11月1日(土)～11月9日(日))、美術部は夏と冬に開催(会期:6月23日(月)～6月27日(金)と12月8日(月)～12月12日(金))し、多くの渾身の作品を展示して同時に部員募集も行うなど、広く活用してもらうことができました。

教員からの利用申込もあり、男女共同参画の啓発活動として、川柳とポスター約50枚の展示を行いました(会期:10月28日(火)～11月11日(火))。また「本でつながる大学と地域 BOOKマルシェ in佐賀大学」と題し、ビブリオバトル、古本市、読み聞かせなどのイベントも開催されました(10月29日(水))。

1階エントランスという場所が利用者の目に触れやすいこと、また展示そのものが「図書館のスペースを使って展示ができる」という設備活用のPRとなっていることもあり、スペースの利用について問い合わせを受けることが増えています。これからもたくさんの方に利用してもらい、図書館入口の「目玉コーナー」になるよう願っています。



川柳展



BOOKマルシェ in佐賀大学

# 図書館統計

〈平成27（2015）年3月31日現在〉

## 基盤統計

蔵書冊数

(冊)

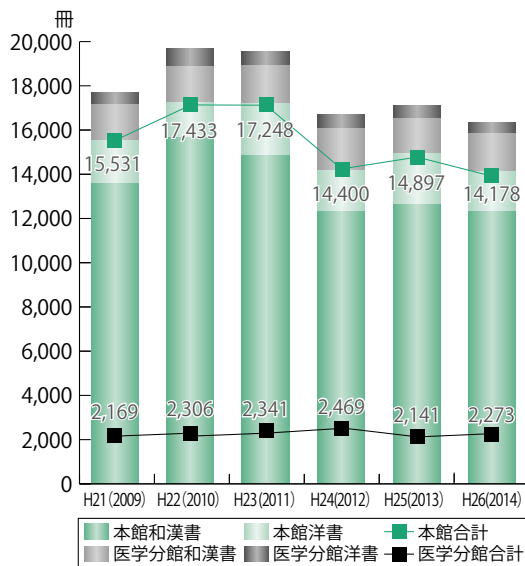
	和漢書	洋書	合計
本館	417,698	177,125	594,823
医学分館	69,706	46,316	116,022
合計	487,404	223,441	710,845

雑誌所蔵種類数

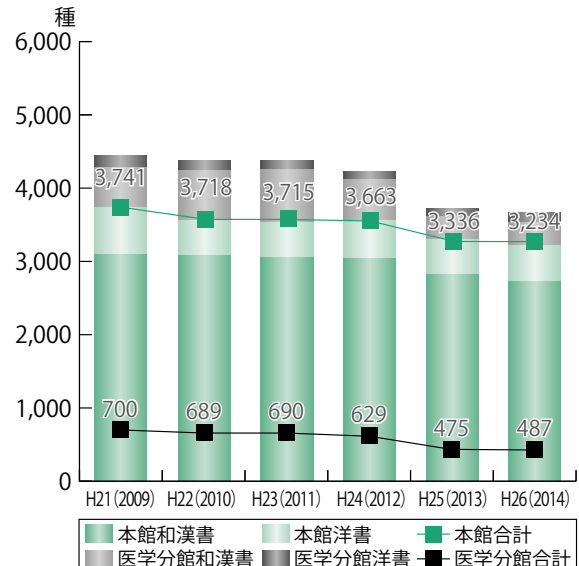
(種)

	和漢書	洋書	合計
本館	6,531	2,974	9,505
医学分館	1,240	1,110	2,350
合計	7,771	4,084	11,855

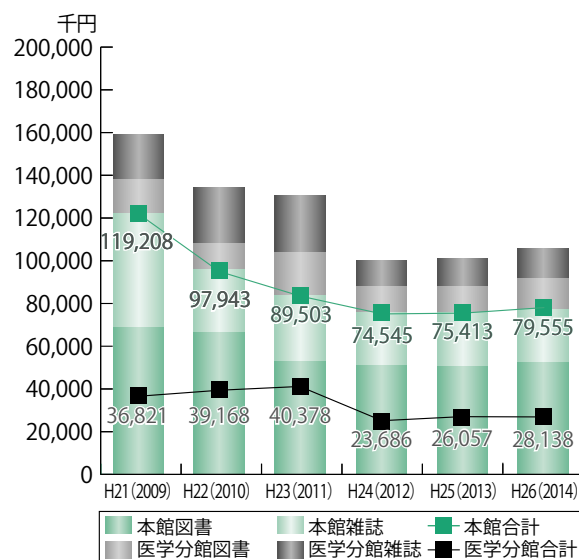
図書受入冊数



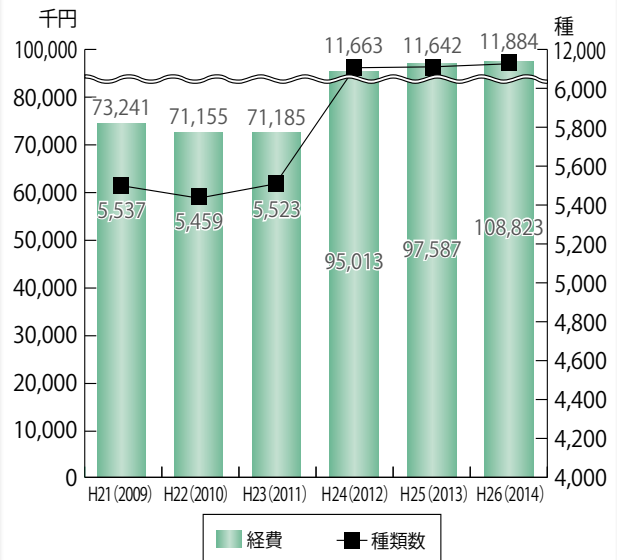
雑誌受入種類数



図書館資料費



電子ジャーナル経費と種類数



(注)平成24年度からアグリゲータ(CiNii、メディカルオンライン、Academic Search Premier、JSTOR)の電子ジャーナル及び外国雑誌契約で購読形態が電子ジャーナル分を加算している。

サービス統計

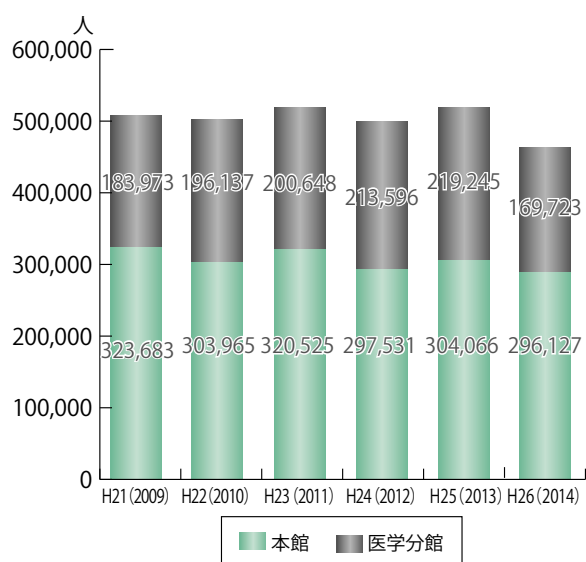
開館日数

	本館	医学分館
平日	235	244
土・日・祝日	109	101
合計	344	345

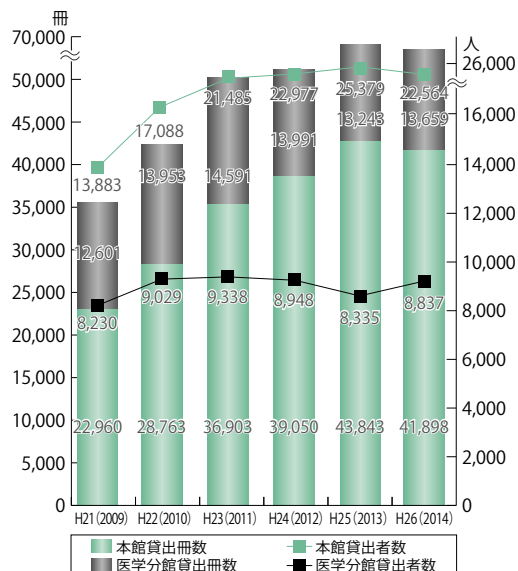
(日) 利用対象者数 (平成27(2015)年5月1日現在) (人)

	本館	医学分館	合計
学生	6,092	1,098	7,190
教職員	1,240	1,515	2,755
合計	7,332	2,613	9,945

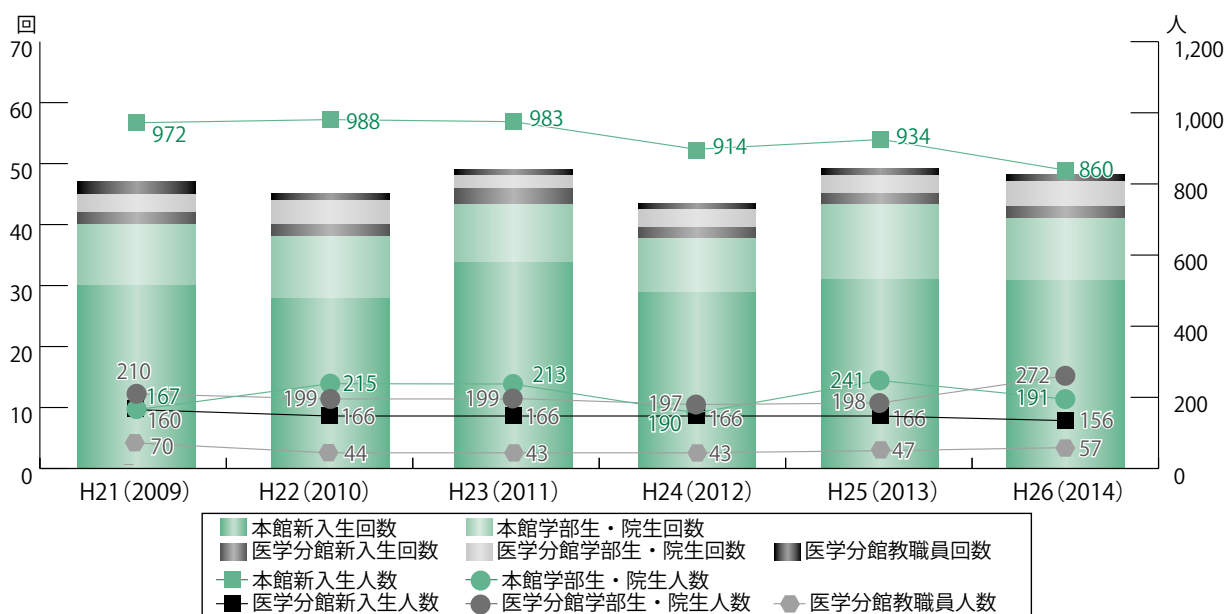
入館者数



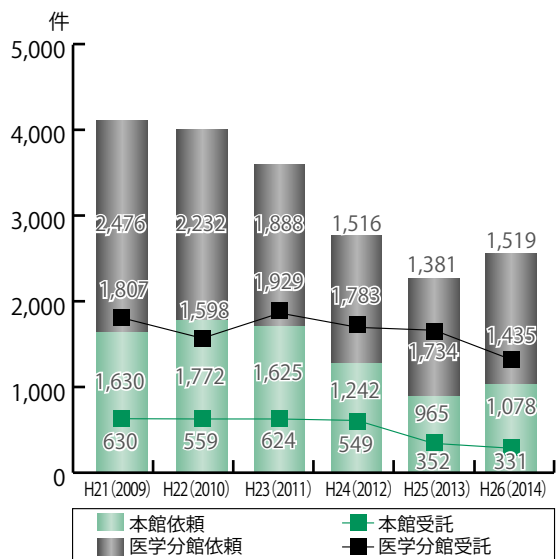
貸出冊数と貸出者数



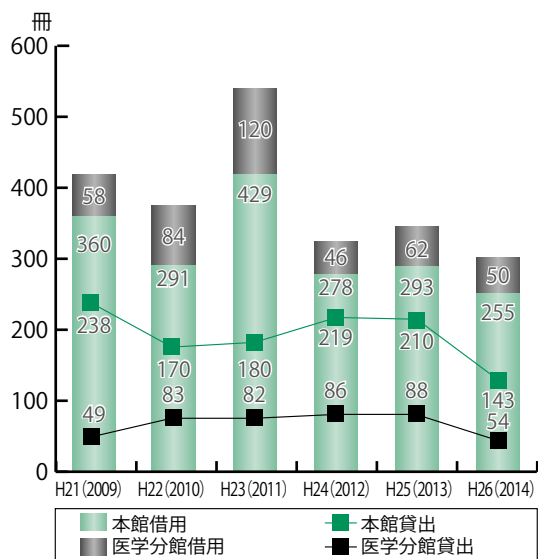
オリエンテーション(図書館案内)



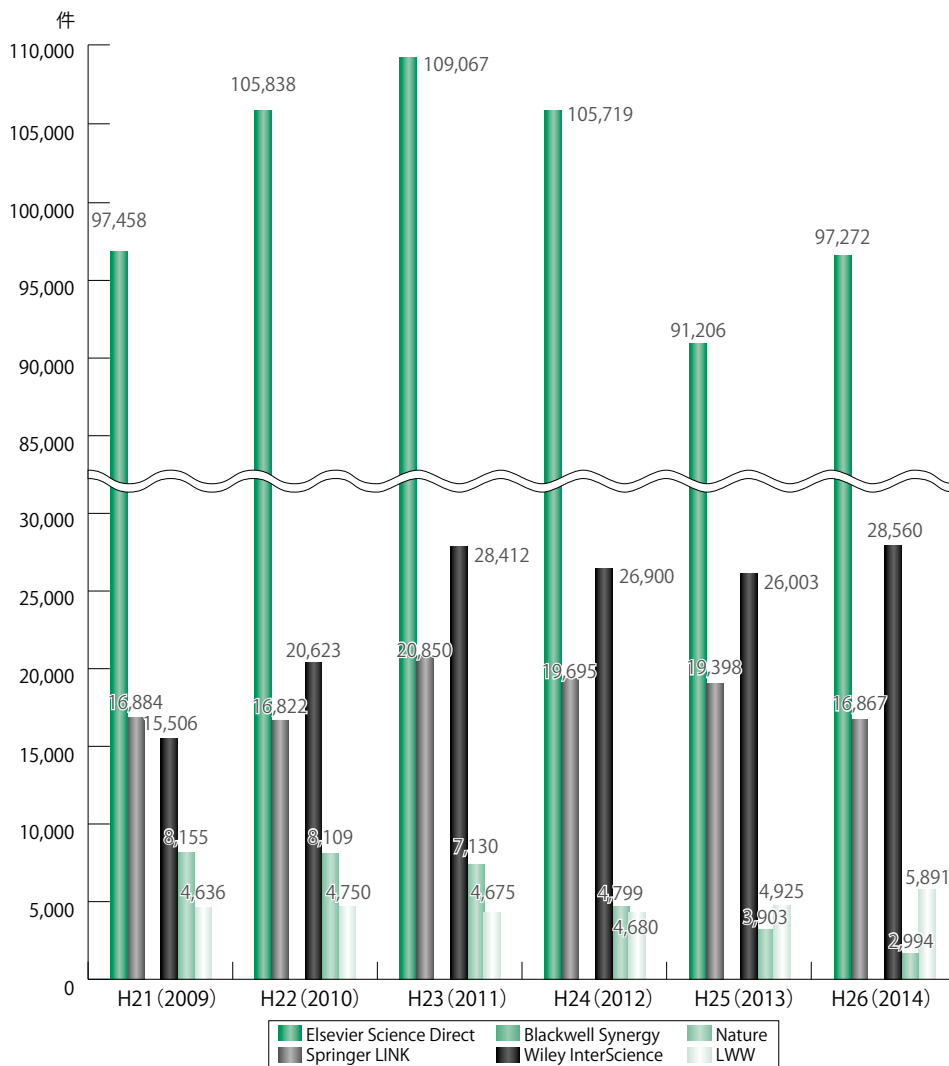
文献複写件数



相互貸借冊数



電子ジャーナル利用件数



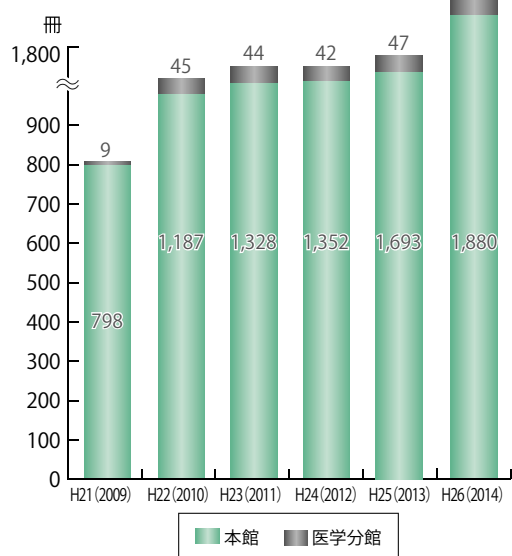
・H21 (2009) Blackwell は Wiley に統合

文献データベース利用件数

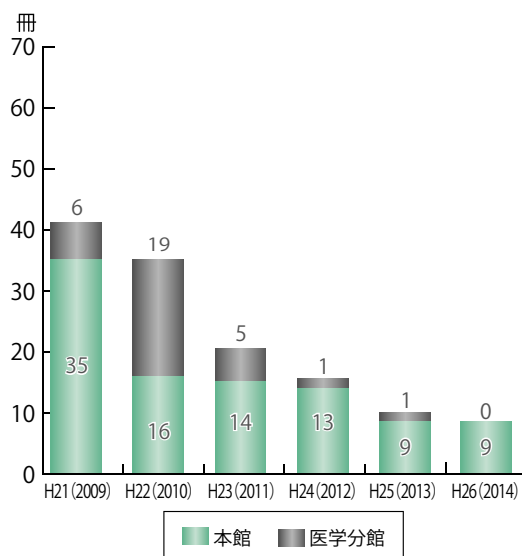
年度	CiNii	間 蔵	ヨミダス歴史館	ジャパンレッジ	ブックプラス	日経テレコン	日経BP記事索引	医中誌Web
H21 (2009)	12,750 (72,456)	928	/	/	/	(216,239)	(2,824)	(255,142)
H22 (2010)	21,901 (86,606)	1,240	(5,627)	398	609 (814)	(267,335)	(2,274)	17,172 (258,413)
H23 (2011)	21,149 (85,559)	1,126	(9,924)	300	520 (646)	(690,657)	(2,861)	17,509 (59,105)
H24 (2012)	15,689 (66,710)	1,023	(7,675)	155	146 (302)	(688,304)	(4,329)	17,308 (51,252)
H25 (2013)	14,620 (74,540)	743	(1,230)	155	84 (61)	(248,024)	(10,245)	16,634 (55,738)
H26 (2014)	12,898 (83,492)	1,040	1,127	824	51 (25)	(312,650)	(7,507)	18,738 (65,725)
年度	SciFinder	Academic Search Premier	Ovid	UpTo Date	Stat!Ref	Clinical Evidence	Cinahl	Scopus
H21 (2009)	3,859	/	7,348	2,533	/	50 (55)	233 (780)	/
H22 (2010)	3,049	3,726	9,586 (20,880)	2,889	171	39 (62)	432 (1,647)	/
H23 (2011)	5,055	2,984	9,302 (22,413)	2,550	41	37 (89)	277 (1,306)	/
H24 (2012)	4,370	3,055	5,964 (11,207)	2,295	12	38 (92)	73 (264)	11,031 (35,832)
H25 (2013)	4,724	2,291	9,437 (21,541)	2,866	17	36 (88)	130 (260)	11,164 (34,083)
H26 (2014)	5,329	2,811	注:(3,480)	3,596	7	40 (114)	143 (362)	12,903 (33,671)

\*括弧内は検索回数または本文利用回数 \*斜線箇所は統計データなし \*注:OvidはMEDLINE,EBMの検索回数

一般市民への貸出冊数



県内公共図書館への貸出冊数



## 館内の施設整備

本館・医学分館では、利用者の方に快適・安全に図書館を使っていただけるように、利用環境の整備・充実を行いました。学習・情報収集にリニューアルした図書館をさらに活用していただきたいと思います。引き続き、利用環境の整備を進めていきます。

本館	医学分館
ラーニングcommons 什器入替及び床の全面張替	閲覧テーブル改修
グループ学習室5 什器入替及び遮光カーテン設置	パソコンコーナー 椅子入替
高照度プロジェクターの導入	ビデオスライド室 什器入替及び液晶プロジェクター(移動式)の導入
窓の網戸設置	学外者用端末プリンター入替
大型扇風機	
図書自動貸出返却機OS交換	

## 受入資料紹介

### 学生用図書

平成26年度学生用図書費により、以下のとおり図書を購入しました。

教員推薦図書 1,897冊 学生希望図書 631冊 図書館推薦図書 1,558冊 継続購入図書 659冊

### 寄贈図書

#### ○大学関係者著作図書

- ・元理工学部教授 丹羽和彦／名古屋大学名誉教授 飯田喜四郎

[共著] ジャン・ニコラ・ルイ・デュラン建築講義要録 / [ジャン・ニコラ・ルイ・デュラン著] ; 丹羽和彦, 飯田喜四郎訳 中央公論美術出版

#### ○その他

- ・佐賀大学名誉教授 田中道雄

島津忠夫著作集 / 島津忠夫著 和泉書院 (島津忠夫氏の著書 外14点)

連歌史論考 / 木藤才藏著 明治書院 (木藤才藏氏の著書 外3点)

近世の読書 / 長友千代治著 青裳堂書店 (長友千代治氏の著書 外4点)

芭蕉晩年の孤愁 / 大谷篤藏著 角川学芸出版

- ・平成26年度医学部看護学科卒業生

根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント / 清村紀子, 工藤二郎編集 医学書院 (外49点)

- ・福岡アメリカンセンター

The Internet and the language classroom / Gavin Dudeney ; consultant and editor  
Cambridge University Press (外18点)

- ・都築和香子

昭和の戦争と大正ロマンのはざまに生きて / 樋口大成著 鳥影社

(敬称略)



## 人事異動

(平成26年4月2日～平成27年4月1日)

異動区分	発令年月日	氏名	現職	異動内容
勤務命令	26.7.1	小野和泉	利用サービス主	医学分館主
"	"	松尾知子	医学分館主	利用サービス主
定年退職	27.3.31	木村伸子	情報図書館課長	
転任	27.4.1	河野泰久	情報図書館課長	大分大学研究・社会連携部 学術情報課長
配置換	"	浅岡宏信	総務部情報管理課専門職	情報図書館課係長(図書・雑誌主)
勤務命令	"	上原ひろ美	情報図書館課係長(図書・雑誌主)	情報図書館課司書(図書・雑誌主)
"	"	北原綾子	情報図書館課司書(図書・雑誌主)	情報図書館課司書(電子情報主)

## 図書館日誌(行事・会議・研修等)

## 平成26年

- 4月 1日 図書館情報誌「さりり」7号発行
- 4月17日 第44回九州地区国立大学図書館協会総会  
(当番館:大分大学 於:大分オアシスタワーホテル)
- 4月18日 第65回九州地区大学図書館協議会総会  
(当番館:大分大学 於:大分オアシスタワーホテル)
- 5月28日 平成26年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会  
(理事館:九州大学 於:九州大学)
- 6月 3日 平成26年度第1回附属図書館運営委員会  
「平成25年度決算及び平成26年度予算(案)について」他
- 6月 3日 平成26年度第1回附属図書館選書専門委員会  
「平成26年度附属図書館蔵書整備計画(案)について」他
- 6月 9日 「アメリカンシェルフ」プロジェクト講演会(於:附属図書館4F会議室)  
講演会テーマ「アメリカ公共図書館におけるマーケティングの取り組み」
- 6月 9日 現場実習  
～20日 特別支援学校中学部 1名
- 6月19日 第61回国立大学図書館協会総会  
～20日 第9回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー  
(当番館:東京大学 於:国立オリンピック記念少青年記念センター)
- 6月20日 就職支援に役立つデータベース活用法セミナー(於:福岡朝日ビル)
- 6月27日 平成26年度第2回附属図書館運営委員会(メール会議)  
～7月 3日 「附属図書館利用規程の改正について」他
- 7月11日 丸善・アカデミックセミナー(於:福岡ビル)

- 7月17日 第10回学術情報セミナー2014 in 福岡 (於:九州大学)
- 7月22日 平成26年度第1回附属図書館医学分館運営委員会  
「平成25年度決算及び平成26年度予算(案)について」他
- 7月23日 平成26年度第2回附属図書館選書専門委員会(メール会議)  
～29日 「本館学生用図書(学科推薦図書)の購入について」他
- 7月26日 平成26年度九州地区国立大学附属図書館ソフトバレーボール大会(当番館:大分大学)
- 8月 7日 大学図書館利用促進事例発表会(於:九州大学)
- 8月 8日 図書館報「ひかり野」38号発行
- 8月11日 平成26年度第3回附属図書館運営委員会(メール会議)  
～18日 「図書の除籍について」他
- 8月12日 第1回学生選書ツアー(於:福岡市)
- 8月18日 平成26年度第2回附属図書館医学分館運営委員会(メール会議)  
～21日 「図書の除籍について」他
- 8月19日 平成26年度佐賀県大学図書館協議会総会  
(当番館:西九州大学短期大学 於:西九州大学短期大学)
- 8月21日 第4回大学図書館学生協働交流シンポジウム(於:山口大学)  
～22日
- 8月22日 第2回学生選書ツアー(於:佐賀市・武雄市)
- 8月24日 佐賀大学情報化要員養成研修(EXCEL)(於:総合情報基盤センター)
- 8月27日 第19回熊本大学21世紀型大学教育セミナー(於:熊本大学)
- 9月 2日 学術講演会「これからの図書館と図書館員の目指すべき方向性」(於:九州大学)
- 9月 3日 目録システム地域講演会(図書コース)(於:熊本大学)  
～ 5日
- 9月 3日 目録システム地域講演会(雑誌コース)(於:山口大学)  
～ 5日
- 9月 5日 第3回学生選書ツアー(於:福岡市)
- 9月25日 平成26年度九州地区事務情報化推進要員スキルアップ研修(於:九州工業大学)  
～26日
- 9月29日 附属図書館(本館)防災訓練実施
- 10月 8日 附属図書館(医学分館)防災訓練実施
- 10月17日 平成26年度第1回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会  
(当番館:九州龍谷短期大学 於:九州龍谷短期大学)
- 10月17日 第62回九州地区医学図書館協議会総会  
(当番館:熊本大学 於:三井ガーデンホテル熊本)
- 10月28日 平成26年度第4回附属図書館運営委員会  
「平成28年度以降の電子ジャーナル及び文献データベースの検討について」他
- 10月30日 平成26年度九州地区国立大学図書館協会実務者連絡会議  
～31日 (当番館:大分大学 於:大分大学)

- 11月12日 図書館月間講演会(於:附属図書館4F会議室)  
講演会テーマ「有田磁器の創始と発展-400年の歴史をたどる-」
- 11月16日 図書館月間講演会(於:附属図書館4F会議室)  
講演会テーマ「デザイン思考ワークショップ in 佐賀大学」
- 11月21日 平成26年度第3回附属図書館選書専門委員会(メール会議)  
～26日 「本館学生用図書(教員推薦図書)の購入について」他
- 11月26日 平成26年度第3回附属図書館医学分館運営委員会  
「医学分館の早朝開館の実施時期及び実施方法等について」他
- 11月27日 大学図書館職員研修会(於:九州大学)
- 11月28日 第22回九州地区医学図書館員セミナー(於:福岡歯科大学)
- 12月 3日 平成26年度九州地区国立大学附属図書館館長・事務(部・課)長会議(於:九州大学)
- 12月 8日 第1回附属図書館電子ジャーナル及び文献データベース検討専門委員会  
「平成28年度以降の電子ジャーナル及び文献データベース契約の在り方について」他
- 12月18日 第1回附属図書館評価専門委員会(メール会議)  
～24日 「平成25年度佐賀大学附属図書館自己点検・評価報告書について」他
- 12月22日 平成26年度第5回附属図書館運営委員会  
「電子ジャーナル及び文献データベースの検討について」他

## 平成27年

- 1月16日 平成26年度第4回附属図書館医学分館運営委員会(メール会議)  
～21日 「教育研究用推薦図書の購入について」他
- 1月28日 平成26年度国立大学図書館協会シンポジウム(於:名古屋大学)
- 2月 6日 平成26年度第6回附属図書館運営委員会(メール会議)  
～10日 「ラーニング・コモンズ整備ワーキンググループの設置について」他
- 2月 7日 佐賀大学附属図書館自己点検・評価に関わる外部評価(於:佐賀大学)
- 2月12日 情報交換及び意見交換(於:京都大学)  
～13日
- 2月14日 九州大学附属図書館ワークショップ(於:九州大学)
- 2月20日 平成26年度第2回福岡県・佐賀県大学図書館協議会南部地区研究会  
(当番館:久留米大学 於:久留米大学)
- 3月 3日 平成26年度第7回附属図書館運営委員会(メール会議)  
～ 9日 「佐賀大学附属図書館副館長選考規程(案)の改正について」他
- 3月 9日 平成26年度第5回附属図書館医学分館運営委員会(メール会議)  
～11日 「教員推薦図書(電子ブック)一覧の全点を購入対象とすることについて」他
- 3月13日 平成26年度第8回附属図書館運営委員会(メール会議)  
～19日 「他機関への図書の譲渡及び除籍について」他
- 3月20日 ラーニング・コモンズ視察及び意見交換(於:明治大学他)  
～21日

## 貴重書紹介

### 小城鍋島文庫「老中奉書」



#### 解説

本史料は、幕府老中酒井雅楽頭忠績より小城鍋島家当主鍋島欽八郎(直虎)へ出された「老中奉書」(幕府からの指示や、大名から将軍への献上品に対する返礼など)である。慶応元年(1865)5月15日付で、小城鍋島家の「公務」(幕府への務め)を「子年」(前年の元治元年(1864))より5年間「用捨」(免除)する旨が記されている。安政元年(1854)、佐賀藩は小城・蓮池・鹿島鍋島の「三家」(佐賀藩家臣団における筆頭格)の「公務」を「用捨」し、長崎警備に専念させるよう幕府に願い出、5年間許可された。安政6年(1859)に5年間延長、上記元治元年に再延長された。

小城鍋島家など「三家」は、参勤交代や御手伝普請などさまざまな幕府の「公務」を務め、幕府(将軍家)に直接仕える大名同然の家であった。しかし実態としては、佐賀藩(鍋島家)から領地を拝領し、同藩家臣団に組み込まれていた。「三家」にとって幕府の「公務」は莫大な出費など辛い負担ではあったが、自らが「大名」である、将軍家に直接奉公する家である、というプライドを保つ拠り所でもあった。

「公務用捨」は「三家」からすれば、佐賀藩によって将軍家とのつながりを制限され、かつ長崎警備という佐賀藩の「公務」を手伝う立場を「三家」に強要する。そのため「三家」のなかには、「公務用捨」に不満を持つ者もいたようである。元治元年に小城鍋島家では、重臣太田蔵人が富岡敬明(のち熊本県知事、貴族院議員)のグループに襲撃された。その取調書よれば、「公務用捨」をめぐる小城鍋島家中で議論がわき起こり、それを「尻押しした(煽動した)との疑義が富岡にかけられていた。上記襲撃事件との直接的なつながりは不明だが、被害者の太田蔵人は佐賀藩に近かったと思われる節があり、「公務用捨」をめぐる小城鍋島家中に親・佐賀藩派と反・佐賀藩派が存在していたのかもしれない。

(地域学歴史文化研究センター 伊藤昭弘)